

「みんなできつろう 市民トーク」開催結果（萩間地区）

1 日時等

- (1) 日 時 平成 30 年 7 月 31 日（火） 午後 7 時 00 分～午後 8 時 57 分
- (2) 会 場 萩間公民館
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問票
- (4) 参加人数 50人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:50-20:40）

(1) 子生れ石、子生れ温泉を軸とした観光施策について

萩間地区は観光資源が豊富で、子生れ石（遠州七不思議）、子生れ温泉（天然温泉）、蛭ヶ谷田遊び（県指定文化財）などを活かした観光施策を要望。

【回答：横山副市長】

以前、市内に來られた観光客を対象に行つた観光客実態調査（海水浴以外での訪問先意向調査）でも、子生れ温泉は市内観光資源の中でも高いポイントを集めていました。子生れ石についても、パワースポットとして注目を浴びる要素があり、観光客を呼び込むための重要なコンテンツと認識しています。

地区の方や、子生れ温泉などの観光関係者を含めた方々とのワークショップにおいても、遊歩道の整備や、桜・もみじなど四季を感じさせる木々を植える、ホテルが観賞できる川にしたいなど、いくつかの提案が出ていました。

今年度は、それらの意見を基に整備案を作成し、来年度から3年を掛けて、子生れ石周辺の遊歩道整備や夜間照明の設置など、現在周辺にある市有地も含めた整地を行い、温泉客やウォーキングにも活用できる場所にしていきます。

また、蛭ヶ谷の田遊びなど、文化的な行事を観光資源として活用する例もあります。前提として、主催者や地区の方の意向を汲んだうえで、市内で行われ

ている文化的行事の洗い出しを行い、年間を通した観光商品として、本年7月3日に地域活性化に関する包括連携協定を締結しました「東武トップツアーズ」へ情報提供を行うなど、新たな商品開発に繋げていきたいと考えています。

(2) 萩間地区へ道の駅（仮称：OCHAステーション）の建設について

萩間地区は、牧之原地区の中でも農業の振興地域であり、お茶、苺、自然薯等の生産も行われ、まさに「食の宝庫」でもあります。

現在行われている牧之原新拠点整備事業を南進させ、東名牧之原IC、国道473号線より市街地へのラインとしての地域振興が必要かと思われます。農業振興地域の萩間地区の都市化は、極めて難しい中において、地域の農産物の販売の促進を目的とした「道の駅」の建設が妥当かと考えます。牧之原地区の商業ゾーン、白井地区の工業ゾーン、平野部の農業ゾーンとして地域振興を図りたい。

【回答：横山副市長】

市では、現在計画中の相良牧之原IC北側開発において、道の駅となるような、観光物販施設を設置したいと考えています。市民の皆様には、このような場所で、特産物のPR、農産物の販売をしていただけるように考えております。

また、子生れ温泉には多くの来訪者がいますので、既存の直売所と連携を図り、多くの農産物が販売できないか検討します。

市内の農業者の中には、独自で直販等を行っている方もいますので、そのような方との連携を地元生産者含めて、協議をしていきたいと考えています。

【再質問】

北側の方には島田市が金谷中学校跡地にアウトレットを建設する計画もあります。その南に同じような施設を整備するということになると、集客としてダブって来るのではないかと思います。

空の玄関口が静岡空港であるなら陸の玄関口は相良牧之原インターです。そこから南に下っていくラインとしての整備が必要ではないかと考えており、萩間地区においても子生れ温泉だけでなく、農業振興を含めた地域振興が必要ではないかと考えますので、その点ももう少し密度の高い政策をお願いしたいと思います。

【回答：横山副市長】

金谷中学の跡地のアウトレットと、私たちが今計画をしている商業施設の関係ですが、アウトレットが新聞報道されたときに、今関心を持っている事業者さんとも話をしましたが「牧之原インターチェンジ北側に設置をする商業的な施設とアウトレットは、客層が全く違いますし、どちらかと言うとお互いに相

乗効果が生まれるから大歓迎です」という回答をいただいています。

またアウトレット側にも、事前に県からこちらの計画をお知らせしてありますが、やはり相乗効果が生まれるから大歓迎ということで、「お互いに点ではなく面をうまく使って、この地域の空港、牧之原台地を中心とした活性化を図っていきたい」と言っていました。

後の質問ですが、御前崎港から 150 号バイパス、473 号バイパスに向かって本川根までラインがあります。県では、そのラインの活性化を内陸フロンティアの新バージョンとして計画を作っています。

そうした中には東萩間の工業団地や大寄の開発地域も含まれていますので、そこを上手く利用して、工場のような企業だけではなくて、自然をうまく使った産業振興にも力を入れていきたいと考えています。またその時期になりましたら、ぜひご協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。

(3) 萩間小学校の芝生化について

萩間小学校にドクターヘリが降りるにあたって砂埃がたつということで、グラウンド芝生化の問題を昨年出しました。磐田ではやっていますが、なかなか牧之原市は整備に時間がかかるということで、断られたようなことがあります。

特に学校問題では納得いかない答弁が多いですが、今、少子高齢化ということで子どもが少ないので、そうした中で優秀な人間を育てていくことを考えていかなければならないし、一人あたりにいくらかのお金を投資するという必要もあるかと思えます。地元出身の優秀な人材が戻ってくるような政策も考えなければなりません。ここで終わるのではなくて、十分検討されるようなことをお願いしたいと思っております。

【回答：橋本教育長】

市全体の予算の中でも、教育費は昨年比べて増額ということで、手厚くやっていますが、配分もありますし、全部まかないきれないという現状ですのでご理解をお願いします。教育の充実のために、限りある予算・財源をどのようにあてていくか、市全体で検討していきます。

【再質問】

このごろ 28 日の台風で学校が避難地になっているということで、早くから避難準備が出ていました。実は私のところに障がい者がいますが、学校には障がい者用のトイレがありません。例えば相良小学校であっても、萩間小学校、菅山小学校でも、そこが避難地になった場合には、障がい者がトイレに行くことができません。たまたま私の所の公民館は障がい者用のトイレを作っています。手すりもついています。だから、小学校では無理なので大寄の公民館にい

かせてもらいたい、という意見を持っている人もいます。

これもまた一つ参考に、教育委員会の関係なのか、防災課の関係か分かりませんが、避難地を設定したら、やはり障がい者の皆さんには、それなりの設備をしていかないと、そこに避難できないということを認識していただきたいと思います。

【回答：杉本市長】

避難所についてですが、今日も幹部会議の中で先日の台風対策について反省会をやり、見直すべきところも含めて話をしました。今までは何でも「体育館へ避難」という位置付けをしていましたが、体育館には冷房がありませんので、熱中症になってしまうかもしれません。無理に体育館に固執せずに、地域の皆さんのご了解をいただけるなら、いくつかの公民館などを避難施設にしようということを、本日話したところです。今後、防災担当課が各地区にお話をさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(4) 萩間地区絆づくり事業について

平成29年度の3月8日、第2回牧之原市議会定例会（一般質問）で、濱崎一輝議員から「地域の絆づくり事業の今後の取り組みについて」の質問がありました。

濱崎議員は地区の絆づくり事業に係わっておられたとの事で、大変、的を射た内容であると思えました。質問の通りの疑問を抱いていた者として、特に質問1の②中“市としてどのような支援をしていくつもりなのか”の市長からの回答にあったように、30年度に入っても具体的な指示が見えません。

また、質問2の①中“行政職員も一緒になって、この事業に参加していく”姿が見えません。むしろ参加が減っているように思えます。市の職員以外にも各自の仕事を持っているにもかかわらず、積極的に参加してくださる委員もいる中で、一度も参加しなかった市職員や遅れて来る職員が、率として高い現状では、市長の回答通りに進めているとは言えないのではないのでしょうか？

皆さん忙しい中でも、地域を何とかしたいとボランティア精神でこの事業に参加しています。市の若手職員が研修を重ねる意識で、積極的な参加を促す良い方向へもって行って欲しいと思います。例えば、総務部長は各部に対して文書で通達し、職員に出席しやすい環境を作る。

【回答：杉本市長】

「絆づくり事業への市職員の参加」についての質問ですが、市職員は全体の奉仕者として使命感を持って業務にあたることはもちろんですが、地域住民の一人でありますので、その意識をもって地域でも活動することが必要なことだと感じています。

職員の中には、スポーツ少年団の指導やイベントでのボランティア、消防団活動等の活動に取り組んでいる職員も大勢いますが、地域活動においては、満足できる状況ではないと思われまますので、市役所としても地域活動に自主的参加ができるよう促していきます。

特に若手職員には、これまでの市が取り組んできた協働のまちづくりや自治会組織、絆づくり事業などを説明する機会を設け、地域へ出ていけるきっかけを作っていきたいと考えています。

地域の絆づくり事業は、多様な世代の話合いや、つながりの中で、取り組みがされていくものと考えておりますので、地域の方々にも広くお声掛けいただき、自主的な参加ができる環境を整えていただければ幸いです。

(5) 萩間地区組織の改編による地域行政の充実化について

萩間地区には2つの行政組織があります。6区で組織する萩間地区協議会、小学校区単位の5区で組織する萩間地区自治推進協議会です。

内部でも理解し難い「1国2制度」のような組織となっています。旧村の頃から、「萩間は一つ」で6区が同じ慣習で生活を共にしてきた経緯があるため、学校単位の組織を改め、6区での萩間地区自治推進協議会として、今後進める事は出来ないものか。(特に絆づくり事業など)

【回答：杉本市長】

現在の小学校区を単位とする10地区の自治推進協議会は、平成23年度に地区長会からの提言を受けて発足したもので、相良・榛原両地区の連携や一体感を強めるために全地区から推薦された方々で話し合っまとめられたものです。

この提言の中で、地域には様々な団体や組織がありますが、小学校区を区域とする地縁組織や、地域内の団体等の連携・協力を一層深めていくことが必要であるとしています。

地域の絆づくり事業も、この提言の中から、地域での連帯感や区域内の協力を強める体制を築くために実施している事業ですので、学校区単位での活動を進めていただきたいと思います。

なお、絆づくり事業以外の部分においては、目的に合った組織で、それぞれの取り組みを継続していただければと思います。

【再質問】

私は学校単位になった経緯を知らなかったもので、こうした言い方をしましたが、かつては萩間中学校の時には、牧之原区を含めて運動会などをやった経過がありました。お互いに親戚も多いということもあります。私の所は学校単位ということで、昔は萩間東小学校と萩間西小学校があり、ちょうど私の地区はその境になっていて、今でも色んな行事が学校単位になってしまっているとい

うような少し弊害的な問題があります。

また牧南町内会でも、大久保町内会はかつて川崎区に入っていたということもあります。大久保と追廻の古い方々は、萩間小学校に通っていたということもありますので、そのような色んないきさつの中で、まだ“わだかまり”のようなものもあります。今のところ、試行的にやっていただき、だんだんコンプリートしていくという形の方がよろしいのではないかという考えです。

【回答：杉本市長】

私もそのように思っています。6地区の協議会というのは、それはそれで良いと思っています。そうした付き合いをされるのは、決して悪くないですし、勝間田区と牧之原区とも、そういう付き合いがあります。

一方で、消防団は消防団で区域があります。意外と消防団の皆さんの方が、新しい考え方の中でうまくまとまっているなという気がします。私は消防団の皆さんが将来的に自治会を担うようになったとき、また色々な考え方が出てくるのかなと思っています。強制的にはではなく、焦らず合意形成を取りながら、一番良い方法になればと思っています。

(6) 萩間公民館の市役所支所または行政センターとして機能拡充について

行政事務の合理化、市民サービスの向上を図るため萩間公民館に支所又は行政センター機能を持たせ、事務職員の配置し各種証明書の発行、自治会事務の代行など、高齢化が進む中で、近くで事務処理が可能になれば、地域にとって大きな利便性が図れるため、ぜひ現実に向けた努力をお願いしたい。

(7) 萩間公民館をコミュニティ会館兼萩間地区防災センターとして新たに建設することについて

萩間公民館は、昭和57年旧萩間中学校跡地に萩間研修センターとして建設され、その後、萩間公民館として改称されました。以来36年余、耐震補強工事もなく、地域の行事などで数多く利用されてきました。

東海・東南海地震を考えると老朽化もあり、地域住民としては不安を抱えております。高台であるため萩間地区では、避難地として適地でありますので、市街地では避難タワー、郊外では避難タワーに代わる施設として、コミュニティ会館兼防災センターの建設を要望します。

【回答：杉本市長】

質問6、質問7は萩間公民館に関するご質問ということで、併せて回答します。「萩間公民館へ行政センターの機能を」、もう一つは「防災センターとして新たに建設を」という要望です。

市では、地区のコミュニティセンターや公民館は、市政が抱える課題へ地区

単位で主体的に取り組むための「まちづくりの拠点」としていきたい、という考えを持っています。

ご質問のとおり、今後、高齢化が進行していくと、身近な場所に行政の窓口機能があれば地域の利便性も向上するものと考えられます。近隣の自治体でも、地域活動の拠点となる施設を設け、行政の身近な窓口としての機能や地域づくりの人材育成など地域活動を支援する仕組みを作っています。

牧之原市でも、このような取り組みができないかと、自治基本条例推進会議において検討を進めており、身近なところで行政サービスが受けられるような地区センターを作りたいという提案させていただき、協議しているところです。

先日、地区長会の皆さんと一緒に視察に行きましたが、一関市では各地区で地区センターを作り、施設管理や事務を指定管理でやっているということでした。ただ我々が研修をしていった時には、自治会活動というよりも、我々のところで言う“絆づくり事業”だけやっているという雰囲気でしたので、さらに自治会活動も含めてやったら、より効率的かなと思いました。

今、相良地区は19区あります。榛原地区は6区で各区が事務職員を雇っています。そういった形で、先ほど言ったような小学校区がいいのか、あるいは萩間地区5地区で地区センター的な形をとるのか、そういったことをこれから地区自治推進協議会の皆さま、あるいは区長会の皆さんと協議をする中で、進めさせていただきたいと思います。

これから高齢化が進む中で、なかなか市役所まで行けないという方たちが出てきますので、交通網の整備というよりは、地域の中である程度のことは完結できるというようなことを進めていきたいと思っています。

また、「防災センターとして新たに建設を」というご質問についてですが、御承知のとおりこの公民館は、建設から36年余りを経過していることから、老朽化が進んでいることは承知しているところです。

平成28年11月に策定した公共施設マネジメント基本計画の考え方に則り、まずは既存施設の活用を視野に入れながら、将来的な施設の整備を検討してまいります。

【再質問】

先ほどデマンドタクシーや子育て支援施策の説明がありましたが、それ以前に萩間地区としては、ここに住んでもらうという条件を整えないと。この地域にかつてはあったスーパーマーケットも診療所もなく、ここ20年くらいの間に萩間は過疎化の一途をたどっています。10年計画ではなく、萩間地区は5年スパンで考えていかないと、どんどん寂れてしまいます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンもあるので、先ほど言った牧之原ICから南進した整備計画・地域振興というのを考えていかないと、萩間地区はやっていけないのではないかと。

また、萩間地区には90歳代でも車に乗っている方がいます。認知症などで事故を起こす可能性も高まりますが、家族が共稼ぎで出まわって病院に行くにもタクシーで行かないといけないということで、免許の返納ができない状態です。社会福祉協議会でそうした支援を行うサービスがありますが、全てに行き届いているわけではありません。

昔は農業者が多く、家族と一緒に仕事をしていましたので、年寄りが病気の場合は、お嫁さんや旦那さんが連れて行くことができました。しかし今は農業者が少なく、夫婦共稼ぎが多い状況です。

お医者さんを早く確保して、萩間地区に診療所を持ってきて欲しいです。片浜では医者はいるが70歳を過ぎており、新しい人も来ないと言っていました。それならまだいい方で、こちらは全くいないという状況です。

まず皆さんがここに定住してくれるような生活環境を作ってから、移住政策を実行すれば、非常にいい制度だなと感じます。ぜひともその点を含めて、お願いしたいと思います。

【回答：杉本市長】

高台開発だけやれば良いと思っているわけではありません。やはり人、ものの流れをつくり、473号バイパスを中心に賑わいや魅力のあるところにしていかなければいけない。

静岡県の医師数を見ると、県全体で人口10万人あたり平均200人強です。この志太榛原地区でみると、10万人あたり150人しかいません。さらに牧之原・吉田の医療圏は、榛原総合病院を含めて80人ほどしかいません。開業医の多くが65歳以上で、10年後には皆さん後期高齢者になってしまいます。

開業医の助成事業も5,000万円出すということで募集開始から3年目に入りましたが、なかなか実績が表れてこない状況です。地域の住民にとって、また外から見て魅力のある地域でないとお医者さんも来ないということですので、各地域を拠点に住みやすいという環境を作ることが医師の招聘についても必要だと思いますし、そのためにはやはり交通環境の公共交通の整備が重要なことだと思います。

今回の一般質問でも、立地適正化計画というような質問もありました。今、中心市街地が相良・榛原にあります。そして高台があってトライアングルですが、その中に各地区の拠点が、そこをしっかりと公共交通で結ぶということが大事であるというふうに思っていますので、そんなまちづくりしていきたいと思っています。

(8) 萩間川の浚渫について

二級河川の萩間川の浚渫が、平成 29 年に東萩間地区で実施されました。各地区で各々浚渫申請を提出する事よりも、もっと広範囲での計画に沿って（例えば、現在相良中学校付近まで綺麗に整備されてきている）浚渫していかないと、一部で行っても一時の川底浚いで終わってしまい、すぐまた元に戻ってしまう傾向が強いのではないかと。

本年度は西萩間地区を来年度は、中里地区・神寄地区を、再来年度は白井地区と萩間川へ注ぐ小さな河川をと、順次行っていく方が効果的ではないかと思えます。

【回答：飯塚建設部長】

河川の浚渫についてのご質問です。要望により浚渫を実施するよりも、計画的に順次行う方が効果的ではないかという内容です。

ご承知のように、二級河川萩間川と、支川である白井川をはじめとする 3 河川については静岡県が管理しています。

所管している島田土木事務所へ確認をしたところ、県では洪水時における災害発生の防止を目的に河川の拡幅工事・浚渫工事を行っています。萩間川の改修については、河川整備計画に基づき、河口から上流へ向けて順次工事を進めており、現在は、相良中学校付近の対岸（左岸）の用地買収や、護岸工事等の抜本的な改修を進めているとのことです。

一方で浚渫工事については、堆積した土砂によって、災害が発生しないように実施するものでありますが、河川管理者による河川パトロールや地元要望等を踏まえ、昨年度から今年度にかけて、治水的な観点から緊急に浚渫が必要と判断した、東萩間地内の萩間川や菅ヶ谷川の中流部の浚渫工事、白井川の流れを阻害していた樹木の撤去など、スポット的な河川浚渫を実施したとのことです。

今後、市としても、堆積状況を把握しながら、効果的な浚渫が図られるように県へ働きかけをしてまいりますので、引き続き地域の皆様による情報提供等のご協力をよろしくお願いいたします。

【再質問】

萩間川の浚渫が行われたということは知っていますが、そのさらに上流や荒川や大倉川という小さな支流では。まだ全然手をつけられていませんが、それはどこにお願いしたらよいのでしょうか。

【回答：飯塚建設部長】

支流については牧之原市の管理ということになりますので、県でも災害防止ということで堆積が激しいところなどが確認できた所は、浚渫をやっています。

すので危険性があるということで、また地域の方で見受けられるようでしたら、建設管理課へ区を通して申し出ていただけたらと思います。

【再質問】

それと合わせて浚渫すると、田んぼに水を引く井手の川底が下がったりして、水が上がってこなかったり、流れてこなかったりするところが出てきます。土で堰き止められているので、防波堤を作ると水が下がらなくて、やっと流れているようなところがあります。それをとってしまうと水面が下がるので、井手の方を直さないといけない。そういうところも直してもらえますか。

【回答：飯塚建設部長】

そういった農業施設関係も当然あるかと思しますので、浚渫にあたっては地域からも、気を付けてほしいことを言っていただければ、対応を検討させていただきながら実施します。

3 個人からの質問票による意見・質問（20:40-20:55）

（1） 小学校のエアコン導入について

愛知県で熱中症により子どもが亡くなったということがありました。萩間小学校のクーラー設置の予定が分かれば教えていただきたいです。

【回答：杉本市長】

今年は本当に酷暑ですが、温暖化が続いているということで、牧之原市では全小学校にエアコンを整備しようとして取り組んできました。今年度は、坂部小学校と勝間田小学校の大規模改修に合わせて設置しますが、平成31・32年と2年間の間で、残りの7つの小学校にエアコンをつけることを進めていきます。

前倒しできれば、来年全てやりたいと思っていますが、全国的にムードが上がってきましたので、国に対する補助金の要求・要望が増えていくだろうと思っています。国の補助金を貰いたいと思っていますが、最悪の場合は単独でもやっていかなければならないということで、整備計画を作っています。早ければ平成31年、遅くても平成32年中には、全ての小学校に整備していきたいと考えています。

（2） 造成中の車両配送センターについて

東萩間に造成中の静岡トヨペットの進捗状況は？ 今後完成までの計画は？ 開業はいつごろですか。従業員の雇用の予定はどのようですか。

【回答：辻産業経済部長】

現在は造成工事を実施しており、造成の進捗は90%程度と聞いています。開業については、造成終了後、建物の建築となりますので、平成31年12月以降の予定です。

雇用については、開業当初は移転元の清水からの従業員による営業となると思われますが、将来的には100人程度の従業員が必要となる見込みですので、今後段階的に地元からの雇用も考えているとのこと。今後、具体的な計画が煮詰まった中で、皆さんに示していきたいと思えます。

(3) イノシシ等の鳥獣被害について

自分が定年退職後に、受け継いだ土地を荒らすわけにもいかず、田んぼで稲を作ったりしています。以前はあまり出没しませんでした。イノシシやシカが、田んぼを荒らして困っています。NOSA I制度という田んぼの補償があり、去年は半分ほど被害を受け、NOSA Iの補助金がありました。

うちは山に面した田んぼが多いですが、2・3日前もイノシシが出て、お茶振興室に電話をしたら、すぐ見に来てくれました。一応相談はしましたが、菅山や他の場所でも出没しており、どうしていくかは協議していかなければならないと聞きました。この辺りはイノシシが多いので、どうしたらいいのかと思えます。

【回答：辻産業経済部長】

イノシシの被害は市内各所で出ています。農林水産課でも皆さんにイノシシ被害があったときは情報提供していただいています。現実にはイノシシを捕獲あるいは銃で駆除することを猟友会の皆さんに委託しています。

ただ猟友会の皆さんも毎日やっているわけではなく、すぐに全てのイノシシが駆除できるという状況ではありません。そういう意味で農地については、農協などからの補助金を活用しながら、電気柵の設置などを皆さんにお願いしています。

被害があった場合は、できるだけ早くに農林水産課に連絡いただき、場所の確認をさせていただく。そして猟友会に出没場所の情報を提供すると、現場を確認したうえで、近くに罠を仕掛けたりといった対応をします。現状はこの方法を進めていくしかないと考えています。

【再質問】

去年まではうちの田んぼが一番山に近かったのも、うちの田んぼには毎日出ました。田んぼの中を走り回り、寝転がって泥を付いたり、畦を掘り起こしたりといった被害がありました。

今年は川を渡ったようで、隣の田んぼまで入った形跡があります。そのまま

にしておくとはどんどん進出し、萩間の時計台や住宅地にも出てくるのではないかと思います。

自分でも何もやっていないわけではなくて、自分で出来る対策をしており、クレゾールを散布したり、花火を鳴らしたりしています。9時と12時に見回りをすると、イノシシと出会います。確かにイノシシが田んぼの中において、ものすごい速さで動いて唸っています。本当に怖いです。なんとかして欲しいです。

【回答：辻産業経済部長】

以前からお話いただいている、猟友会にも言っていることですので、できるだけ早期に、とりあえずは罾を仕掛けるということが必要だと思いますので、対応したいと思います。全市的にイノシシは増えていますから、今後の対応については内部的にも課題になっていますので、進めていきたいと思っています。

(4) 同報無線デジタル化について

5月の議会だよりに掲載されていたが、鈴木長馬議員の一般質問について、市からの回答が「多額の費用がかかるので、基地局または中継局等で家庭内受信機の交換等は考えない」とのことであるが、緊急放送の際の音源の雑音・騒音の解消されるのか問いたい。

チャイム等の定時放送は静かに流れるが、火災等の緊急放送は、いきなりガン！と入り、ブツブツ音がしばらく流れ、間をおいてチャイム音があり、本題に入る。「火災発生、火災発生」となるが、これでは緊急放送での意味がないのでは。その際、どこそこ地内と放送が入るが、発音または放送機器の問題か、“白井地内”と聞こえ、勘違いしてしまう案件が過去にあったが、これも解消されるのか。

時期はハッキリしないが、市防災課に突然上記のような放送がされた時点で、2016年12月14日（大沢地区火災）録音し、メール添付で抗議したことがあるが、回答は「機械が古いので」との返事だった。

【回答：桑田防災課長】

相良地区の同報無線の機械については平成2年度の整備ですので、既に25年以上経過しています。常に点検をしています。老朽化で修理等が必要になっています。そして総務省の新スプリアス規格に現行の機器が対応していないことから、有事の際の情報伝達に万全を期すため、3年かけてデジタル化整備を実施していきます。25年以上前よりも技術が進んだ最新の機器に更新するので、高性能スピーカーなどにより難聴地区の解消や、聞き取りやすさが向上するだけでなく、メールやSNSを活用した文字による配信も実施していきます。

現在も同報テレホンサービス＜23-0999＞で放送内容が確認できるようになっていますのでご利用ください。

【再質問】

前回の災害の時にも避難情報などの緊急放送がありました。その時にザーザーって入ってしまって、何を言っているか分からないが、停電がどこかであったという内容でした。そうした変なノイズを録音して、メールで防災課に連絡しました。その返事が「機械が古いので」という返事で終わってしまいました。その時にデジタル化や見直しというのが出ていたので、雑音は緊急放送で、夜中に突然入って雑音がすごくて、市の職員にも話しましたが、デジタル化や見直しでそれが直るのか、という質問です。

【回答：糸田防災課長】

25年前の設備と異なり、最新の機械に更新します。そういったことがないようしっかり整備をしていきたいと思います。自分も滑舌が悪いので、放送時に聞き間違えられることもあるかと思います。今回整備する機械は、文字で打ったものを音声合成で流す形になります。放送する人間の個人差を加味しないシステムになりますので、聞き取りやすくなると思います。